

南伊勢町ドローン防災プロジェクト

実施主体：南伊勢町役場



平成28年度「南伊勢町ドローン防災」CLL活動では、ドローンを用いて撮影した画像を南伊勢町の地域防災に活用することを目的にしています。南伊勢町はこれまで津波の被害を受けてきた歴史などから、将来の地震災害に備えて役場の防災課や各自治会が主体となり非常に熱心に、独創的・個性的な各種防災・減災対策に取り組んでいます。それらの中でも、本活動ではドローンによって避難所周辺の空撮を行うことにより、従来よりも詳細で視覚的にわかりやすいハザードマップの作成と、特に災害弱者である高齢者や児童を中心とした地域住民の方々への避難情報の提示を目指しています。ドローンの空撮画像からは、平面写真、斜め写真を簡単に撮影可能であることや、画像から3次元モデルの作成も可能です。これらのデータを利用することによって、地図を読むのが困難な人にも直感でわかるハザードマップの作製を試みています。また本活動では、空撮だけではなく、撮影範囲を隅々まで歩き、避難経路付近で崩れやすそうな塀などの危険個所や、避難行動が困難と考えられる急傾斜地や狭い道なども現地調査を行い、ドローン画像によるハザードマップに盛り込むことを目指しています。

実際の活動では、南伊勢町神津佐地区と東宮地区周辺などをモデル地区として、自治会や防災課職員と合同で、複数回の現地調査を行いました。調査からは学べることが多く、私たちの災害への危機意識を見直す機会にもなりました。現時点ではドローンによるハザードマップはまだ完成していません。しかし、本活動は開始されて間もないことや、来年度の継続が決定しているので、春休み～新学期にかけてマップの試作を行い、この時期に地域でのワークショップや防災勉強会を通じてわかりやすさのヒアリングなどを行う予定です。今後、より地域を広げ改良を加えながら地域防災に実際に役に立つものを学生の視点から作成して地域に提示していきたいと思っています。

(指導教員：近藤 玲介)